



資料



～かわさき産業ミュージアム講座これまでの経過～

◆かわさき産業ミュージアム講座これまでの経過

平成22年度（全3回）



1	日 時	平成22年10月29日（金）18：30～
	講 師	朝岡 正裕氏・長谷川 幸平氏（東京電力株式会社西火力事業所）
	参加者	23人
	テーマ	「企業の歴史と産業遺産（8）」川崎区における東京電力の火力発電所の歩み～高度経済成長から低炭素社会実現に向けて～
	内 容	1 電気始業の創始～拡大—明治16(1883)年～大正12(1923)年 2 電力戦の展開—大正13(1924)年～昭和12(1937)年 3 国家統制—昭和13(1938)年～昭和25(1951)年 4 東京電力発足—昭和26(1951)年～ 5 公害問題の発生と対応 6 当時の社内からみた鶴見火力発電所 7 LNG 火力発電の推進・技術革新の追及 8 蒸気事業供給 9 森の中の火力発電所 10 メガソーラー発電
		
2	日 時	平成22年11月5日（金）18：30～
	講 師	仲宗根 修氏（川崎沖縄県人会会長）
	参加者	25人
	テーマ	川崎と沖縄
	内 容	1 琉球（沖縄）の歴史 2 川崎と沖縄の歴史的関わりについて 3 沖縄芸能研究会の沿革について 4 実演 （1）宮廷女舞踊 かせかけ （2）雑踊り 花風
		
3	日 時	平成22年11月12日（金）18：30～
	講 師	長島 保氏（かわさき産業ミュージアム専門委員・地域史研究家）
	参加者	25人
	テーマ	川崎の産業を支えた人物を巡って
	内 容	1 多摩川沿岸に工都を築いた人たち （1）安部幸兵衛と増田増造 （2）東芝発展に貢献の社長たち 藤岡市助・新荘吉生・山口喜三郎 （3）鈴木三郎助 2 海浜で産業を起こした人々 海苔養殖に励んだ人たち 3 臨海に工都を築いた人 浅野総一郎

平成21年度（全4回）



1	日 時	平成21年10月30日（金）18：30～	
	講 師	長島 保氏（地域史研究家）	
	参加者	24人	
	テーマ	川崎の都市化と耕地整理	
	内 容	<p>1 多摩川下流域の都市化</p> <p>（1）川崎の都市化と耕地整理</p> <p>（2）初の川崎進出近代工場</p> <p>（3）東京電気川崎工場</p> <p>（4）逗子から移転した味の素</p> <p>（5）多摩川沿岸に近代工場が進出した理由</p> <p>2 多摩川下流域の耕地整理事業</p> <p>（1）多摩川下流域での耕地整理組合一覧</p> <p>3 多摩川改修事業と耕地整理</p> <p>4 市街地の造成と耕地整理法</p>	
2	日 時	平成21年11月6日（金）18：30～	
	講 師	武重 邦夫氏（日本映画学校相談役）	
	参加者	17人	
	テーマ	娯楽としての映画と映像のまち・かわさきへ	
	内 容	<p>1 映画の歴史</p> <p>（1）映画は人間の好奇心を拡大しながら進歩してきた</p> <p>（2）日本映画の発達と社会のかかわり</p> <p>（3）川崎市の背景と映画のかかわり</p> <p>2 美須興行の沿革</p> <p>（1）東京大空襲・高度経済成長と日本映画界の興亡</p> <p>（2）日本興行界の女傑、美須君江氏の活躍</p> <p>（3）1980～90年代 シネコン「チネチッタ」の誕生</p> <p>（4）川崎における美須興行の功績</p> <p>3 日本映画学校としんゆり映画祭～川崎北部の映画文化の沿歴～</p> <p>（1）映画学校の創設</p> <p>4 新百合ヶ丘と日本映画学校</p> <p>（1）横浜から川崎市の新百合ヶ丘へ</p> <p>（2）世界の映画学校に躍進</p> <p>（3）しんゆり映画祭の誕生</p> <p>5 「映像のまち・かわさき推進フォーラム」の取組みについて</p> <p>（1）映像のまち・かわさき</p> <p>（2）映像のまち・かわさきが目指すべきもの</p>	

3	日 時	平成21年11月13日(金) 18:30~
	講 師	二宮 公雄氏(都市プランナー)
	参加者	18人
	テーマ	娯楽エリアの成立と商店街の発展
	内 容	<p>1 川崎駅前地区の商業環境の変遷(5つの発展段階)</p> <p>(1) 娯楽エリアの成立(昭和20(1945)年代前半)</p> <p>(2) 戦後中心商業地の形成(昭和30(1955)年代前半)</p> <p>(3) 東口広域商業地の拡大(昭和60(1985)年代前半)</p> <p>(4) エンターテイメント系機能による個性化(平成10(2000)年代前半)</p> <p>(5) 西口の大型開発と東西商業地の連担化(平成10(2000)年代後半)</p> <p>2 娯楽エリアの成立(昭和20年代前半)</p> <p>(1) 前史</p> <p>(2) 川崎のDNAの創生</p> <p>(3) 昭和22(1947)年末</p> <p>(4) 娯楽エリア</p> <p>3 後中心商業地の形成(昭和30年代前半)</p> <p>(1) 駅前地区の状況</p> <p>(2) 中心商店街の基本形の形成</p> <p>(3) 「民衆駅」の誕生</p> <p>4 東口商業地の拡大(昭和60年代前半)</p> <p>(1) 駅前地区の状況</p> <p>(2) 「アゼリア」</p> <p>(3) 菱星ショッピングセンター(「ルフロン」)</p> <p>(4) 「川崎BE」</p> <p>5 エンタメ系機能による個性化(平成10年代前半)</p> <p>(1) 駅前地区の状況</p> <p>(2) シネマ+イベントによる広域娯楽中心化</p> <p>(3) シネコンは更に増加</p> <p>(4) 個性の内容</p> <p>6 西口大型開発と東西の連担(平成10年代後半)</p> <p>(1) 駅前地区の状況</p> <p>(2) LAZONA川崎</p> <p>(3) 開発に伴う街の変化</p> <p>7 60余年を振り返って</p> <p>(1) 広域的に見たポジションの変化</p> <p>(2) パイの拡大と分配</p> <p>(3) 回遊性の向上~ハードとソフト</p>




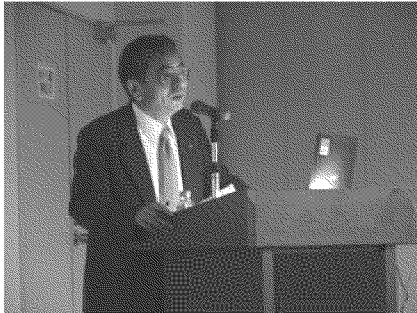
4	日 時	平成21年11月20日(金) 13:00～
	講 師	山中 敏之氏(地域史研究家)
	参加者	15人
	テーマ	市電跡を歩く～市電(川崎市営軌道)とトロリーバス(無軌条電車)～(フィールドワーク)
	内 容	<p>■塩浜バス停前</p> <p>市電(川崎市営軌道) 昭和19(1944)年10月14日～昭和44(1969)年3月31日</p> <p>①市営環状線計画②市電の開通と空襲被害③市電の再出発④国鉄貨物列車の乗入れ ⑤塩浜乗り入れ⑥貨物列車の日中運転開始⑦国鉄塩浜操車場建設⑧市電の廃止</p> <p>トロリーバス(無軌条電車) 昭和26(1951)年3月1日～昭和42(1967)年4月30日</p> <p>■汐留橋■入江崎停車場跡■神奈川臨海鉄道線路■観音川～池上新町緑道■高架線～臨海消防署■浅田緑道・産業道路■桜本駅前バス停■桜川公園</p>
 		


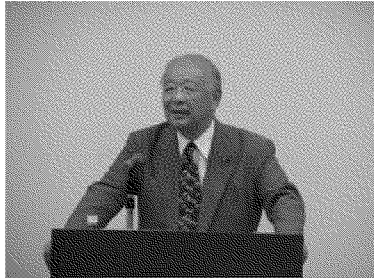
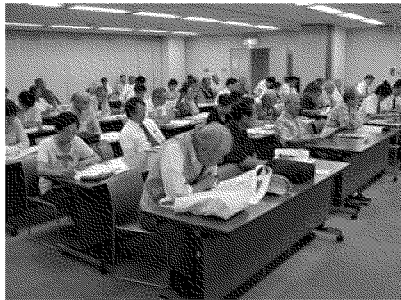
平成20年度(全3回)


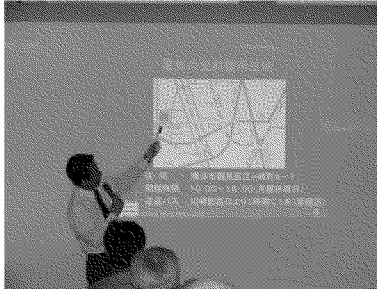

1	日 時	平成20年10月23日(木) 18:30～
	講 師	長島 保氏(地域史研究家)
	参加者	24人
	テーマ	工都川崎前夜 ―東海道川崎宿から工都川崎へ―
	内 容	<p>1 工都川崎前夜</p> <p>2 描かれた川崎宿</p> <p>(1) 東海道五十三次の内川崎宿</p> <p>(2) 東海道分間延絵図</p> <p>(3) 残された唯一の写真か?</p> <p>3 鉄道が開通して</p> <p>(1) 押し寄せる文明開化の波</p> <p>(2) 日本初の複線用鉄製鉄道橋・明治10年</p> <p>(3) さびれてしまった川崎のまち</p> <p>4 お大師様で復活</p> <p>(1) 参詣者の大半は日帰り客</p> <p>(2) 東日本初の大師電気鉄道</p> <p>(3) 電鉄敷設に猛反対の人力車夫団</p> <p>5 自然の恵みに育まれ</p> <p>(1) 川崎は穀倉地帯＝稲毛米の大産地</p>
 		

		<p>(2) 川崎は果物のふるさと</p> <p>(3) 海からの贈り物＝名産大師海苔</p> <p>6 花開く地場産業</p> <p>(1) 原料は六郷川から採取</p> <p>(2) 横浜貿易の花形輸出品・麻真田</p> <p>7 工都へのあゆみ</p> <p>(1) 東京・横浜の市街を造った多摩川砂利</p> <p>(2) いのちの水＝上水道と工業用水</p> <p>(3) 多摩川の水運を利用して</p> <p>(4) 横浜精糖・東京電気・日本蓄音機・味の素</p>
2	日 時	平成20年10月30日(木) 18:30～
	講 師	青木 栄一氏(東京学芸大学名誉教授)
	参加者	28人
	テーマ	川崎と鉄道 ―地図で見る川崎と鉄道の変化②―
	内 容	<p>1 電車の登場</p> <p>2 日本における電車の導入</p> <p>3 日本各地に路面電車の普及</p> <p>4 大師電気鉄道の開業と京浜電気鉄道への発展</p> <p>5 都市化と高速電車化</p> <p>6 湘南電気鉄道の開業</p>
		
3	日 時	平成20年11月6日(木) 18:30～
	講 師	小形 秀夫氏(富士電機システムズ株式会社)
	参加者	15人
	テーマ	「企業の歴史と産業遺産(7)」～富士電機システムズ～
	内 容	<p>1 富士電機のDNAと設立までの経緯</p> <p>2 不況下の経営</p> <p>3 満州事変と景気転換</p> <p>4 太平洋戦争の時代</p> <p>5 戦後の復興・躍進</p> <p>6 高度成長と重電生産の拡大</p> <p>7 不況を乗り越え再建・躍進</p> <p>8 石油危機と経営安定化</p> <p>9 平成の時代</p> <p>10 川崎工場ゆかりの産業遺産について</p> <p>11 ブランドの変遷</p>
		


平成19年度（全3回）


1	日 時	平成19年10月3日（水）18：30～
	講 師	長島 保氏（地域史研究家）
	参加者	53人
	テーマ	水辺に育まれた川崎の産業
	内 容	<p>1 水辺都市かわさき</p> <p>2 母なる川多摩川に育まれて</p> <p>（1）名産長十郎梨と伝十郎桃</p> <p>（2）水車、天然氷、河川漁業（鮎漁）</p> <p>（3）東京・横浜の都市化に一役かった多摩川の砂利</p> <p>（4）首都近郊の遊興地</p> <p>（5）岸辺にやってきた近代工場</p> <p>3 江戸前の海に育まれて</p> <p>（1）干潟を大地に</p> <p>（2）県下一の海苔養殖</p> <p>（3）臨海地にやってきた近代工場</p> <p>4 臨海地域の埋立地</p> <p>（1）浅野埋め立ての開始</p> <p>（2）「金は海からすくう」浅野埋め立て</p> <p>（3）公営事業となった埋め立て</p> <p>（4）高度経済成長を支えて</p> <p>5 水辺（都市）の復原</p>
		
2	日 時	平成19年10月10日（水）18：30～
	講 師	西田 裕俊氏（株式会社デイ・シイ）
	参加者	43人
	テーマ	「企業の歴史と産業遺産（6）」～デイ・シイの歩みと今後の展望～
	内 容	<p>1 セメントとは？</p> <p>2 コンクリートの材料としてのセメント</p> <p>3 コンクリートの長所と短所</p> <p>4 セメントの歴史</p> <p>5 創始者、浅野総一郎</p> <p>6 初期のセメント工場</p> <p>7 川崎工場の誕生</p> <p>8 今も現役のセメントサイロ</p> <p>9 関東大震災</p> <p>10 セメント工場能力番付表</p> <p>11 高炉セメント</p> <p>12 日本高炉セメント(株)の誕生（昭和16年）</p>
		


		13 第一セメント(株)の設立 (昭和 24 年) 14 セメント需要の増加 15 戦災からの復興 16 セメント国内需要の推移 17 労働生産性の推移 18 焼成用熱エネルギー原単位の推移 19 (株)デイ・シイの誕生 20 デイ・シイ グループネットワーク 21 デイ・シイ川崎工場 22 廃棄物処理に適した、高温焼成のセメント工場 23 デイ・シイの処理実績 24 CO2削減のシミュレーション 25 様々な廃棄物処理・リサイクル事業 26 循環社会への貢献	
3	日 時	平成 19 年 10 月 24 日 (水) 18 : 30 ~	
	講 師	青木 栄一氏 (東京学芸大学名誉教授)	
	参加者	44 人	
	テーマ	川崎と鉄道 ~地図で見る川崎と鉄道の変化~	
	内 容	1 鉄道の開通 2 六郷川の橋梁架替え 3 京浜電気鉄道と院電京浜線の開通 —路面電車から高速電車へ— 4 工業地域の発展と鉄道網	
平成 18 年度 (全 5 回)			
1	日 時	平成 18 年 9 月 28 日 (木) 18 : 30 ~	
	講 師	長島 保氏 (地域史研究家)	
	参加者	46 人	
	テーマ	近代の二ヶ領用水と川崎の水道	
	内 容	1 二ヶ領用水は、いま (産業遺産との関わり) 2 近代の二ヶ領用水 (1) 400 年余の歴史を刻んだ用水堀 (2) 横浜水道への分水問題 (3) 用水組合の制度化 (4) 多摩川治水と用水組合 (5) 都市化の進行と用水組合 (6) 多摩川右岸農業水利改良事業	

		(7) 川崎市への移管と組合解散 3 私たちが飲んでいる水は、どこの水？
2	日 時	平成18年10月5日(木) 18:30~
	講 師	原口 芳徳氏(電気の史料館 館長)
	参加者	36人
	テーマ	「企業の歴史と産業遺産(3)」~電気事業の始まりと電化の歴史
	内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 電気とは？ 2 通信事業の始まり 3 電気灯の始まり 4 海外の電気事業の始まり 5 日本の電気事業の始まり 6 東京電燈会社の設立 7 電燈局(発電所)の設置 8 小規模発電所から大容量へ 9 直流送電と交流送電の対立 10 交流送電の優位性 11 直流送電から交流送電へ 12 なぜ50Hzと60Hzか 13 送電ネットワークの形成 14 電力会社の乱立時代(関東) 15 国家統制から9電力会社体制へ 16 電化の変遷 17 動力への応用 18 市電の始まり 19 昭和12年の家電製品の普及率 20 電化製品のPR 21 電気は人なり
		 
3	日 時	平成18年10月12日(木) 18:30~
	講 師	浅田 靖之氏(東芝科学館 前館長)
	参加者	38人
	テーマ	「企業の歴史と産業遺産(4)」~創業者の素顔と京浜臨海部に於ける東芝の発展
	内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 東芝の創業者: 田中久重 <ol style="list-style-type: none"> (1) 久留米時代 (2) 京阪時代 (3) 精錬方の時代 (4) 久重、東京へ (5) 田中商店から田中製造所・芝浦製作所へ
		

		<p>2 東芝の創業者：藤岡市助 (1) 非常なる秀才 (2) エジソンとの出会いと白熱舎設立</p> <p>3 東芝の展開 (1) 堀川町工場・柳町工場 (2) 小向工場・青梅工場 (3) 個を光らせる経営・東芝の事業分野別売上高</p>
4	日 時	平成18年10月19日(水) 18:30～
	講 師	高橋 豊氏(ガスミュージアム学芸員)
	参加者	32人
	テーマ	「企業の歴史と産業遺産(5)」～東京ガスの歴史とガスのある暮らし
	内 容	<p>1 ガス事業の始まり 2 日本のガス事業の始まり 3 ガス灯のあかりについて 4 東京のガス灯 5 電気灯の登場、ガス灯の終焉 6 あかりから熱源へ 7 国産品の登場 8 全国ガス会社数の変遷 9 東京ガスの変遷 10 ガス製造方法の変遷 11 東京ガスの工場の変遷 12 川崎との関わり 人物から見るガス会社 13 川崎瓦斯株式会社 14 ガス橋 15 東京瓦斯電気工業株式会社</p> 
5	日 時	平成18年10月26日(木) 18:30～
	講 師	後藤 治氏(工学院大学 教授)
	参加者	31人
	テーマ	日本近代建築史と川崎の建築物
	内 容	<p>1 近代建築史と川崎の建物 (1) 日本における近代建築史の研究 (2) 日本の近代化を支えたもの (3) 川崎市役所庁舎 (4) 昭和電工本事務所 (5) 日本鋼管のアウマン邸 (6) 日本鑄造の工場</p> 

		2 産業遺産の保存 3 建物の利用と歴史的建築物の保存	
平成17年度（全4回）			
1	日 時	平成17年11月9日（水）18：30～	
	講 師	長島 保氏（地域史研究家）	
	参加者	28人	
	テーマ	工都・川崎の歴史総論	
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> 1 京浜工業地帯発祥の地、川崎 2 川崎臨海地帯の土地の成り立ち 3 江戸時代 磯付村だった川崎臨海地帯 4 明治～大正 海苔漁業の盛衰 5 埋め立てによって失われた自然海岸 6 埋め立ての歴史 7 面積の半分以上が埋立地の川崎区 8 浅野総一郎 生い立ちと実業家になるまで 9 浅野総一郎 埋め立て事業の動機 10 浅野総一郎 埋め立て事業 11 埋立地の完成 12 次々造成された埋立地とやってきた工場 13 戦後、高度成長を支えたコンビナート 14 臨海地帯の再生に向けて 	
2	日 時	平成17年11月16日（水）18：30～	
	講 師	松田 正人氏（味の素株式会社）	
	参加者	33人	
	テーマ	「企業の歴史と産業遺産（1）」～味の素の歴史と技術	
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> 1 味の素前史 鈴木なかと鈴木三郎助 2 池田菊苗博士の大発見・大発明 <ul style="list-style-type: none"> （1）三郎助と池田菊苗の出会い （2）工場の推移 3 川崎移転の頃 <ul style="list-style-type: none"> （1）川崎工場の歴史 4 味の素100年まであと少し <ul style="list-style-type: none"> （1）「グルタミン酸」の製造方法 （2）「味の素」の製造方法 池田博士の方法（抽出法） （3）「婦女界」大正13年5月号 （4）現在の製造方法 5 味の素の現状と未来 6 産業ミュージアムとCSR 	


3	日 時	平成17年11月30日(水) 18:30~
	講 師	伊東 孝氏(日本大学理工学部教授)
	参加者	35人
	テーマ	川崎の都市計画と河港水門
	内 容	<p>1 文明開化~市制施行(大正13年7月)</p> <p>(1) 文明開化で栄えたもの、疲弊したもの</p> <p>(2) 文明開化で栄えたもの、疲弊したもの</p> <p>(3) 川崎の工都化で栄えたもの、疲弊したもの</p> <p>(4) 川崎の産業第一号は煉瓦工場</p> <p>(5) 湿地帯だった川崎の臨海部</p> <p>(6) 工業発展の8つの要因</p> <p>(7) 関東大震災もきっかけだった?</p> <p>2 市政施行以降 川崎の都市計画</p> <p>(1) 市制施行以降、川崎最初の都市計画</p> <p>(2) 運河計画</p> <p>(3) 街路計画と今回用意された図面</p> <p>(4) 資料としての「川崎市史」</p> <p>(5) 川崎で最初の都市施設整備</p> <p>(6) 京浜運河の完成</p> <p>(7) 川崎河港水門について</p> <p>(8) 六郷水門</p> <p>(9) 工場用地の販売と埋め立て、住宅地の開発</p>
		
4	日 時	平成17年12月7日(水) 18:30~
	講 師	高原 正雄氏(いすゞ中央研究所)
	参加者	24人
	テーマ	「企業の歴史と産業遺産(2)」~いすゞ自動車の歴史とDA40エンジン
	内 容	<p>1 創業期から創立期</p> <p>(1) いすゞ自動車の前史(石川島造船所、東京瓦斯会社)</p> <p>(2) いすゞ自動車創業期 (石川島造船所の自動車製造、石川島自動車製作所、自動車工業株式会社)</p> <p>(3) ディーゼル機関研究会の発足</p> <p>(4) ディーゼルエンジンの誕生</p> <p>(5) 日本の自動車用ディーゼルエンジンの誕生</p> <p>(6) ディーゼルエンジンのしくみ</p> <p>(7) ディーゼルエンジンは本当に悪者?</p> <p>(8) 体の中にまで入り込むPM</p> <p>(9) NOx と PM の削減と規制</p> <p>(10) スーパークリーンディーゼルエンジンの開発</p>

	<ul style="list-style-type: none"> (11) 東京自動車工業株式会社の創立 (12) 「いすゞ」の由来 (13) 川崎の様子 昭和 13 年頃 (14) 戦時色濃厚の時代 (15) ディーゼル自動車工業株式会社時代 (16) 戦局の悪化から敗戦へ (17) 創立までのあゆみ 2 戦後復興・総合自動車メーカーへ <ul style="list-style-type: none"> (1) 戦後の生産復興への対応 (2) 社名・いすゞ自動車とする (3) 英国ルーツ・モータースとの提携 川崎工場の拡大 (4) 小型車専用工場の建設 (5) トラック市場の変化に乗り遅れる 3 GM とともに、世界へ展開 <ul style="list-style-type: none"> (1) 世界最大のゼネラルモータースとの提携 (2) 石油危機発生 (3) 企業再建への苦闘 フレッシュいすゞ作戦の展開 (4) 対米の新展開 4 乗用車から撤退、CV とディーゼルのCOE として <ul style="list-style-type: none"> (1) 乗用車の開発・生産からの撤退 (2) ISUZU V PLAN (3) 最強だったバスケット部 	
--	--	--

※講義録は「かわさき産業ミュージアム」ホームページで公開しています。

かわさき産業ミュージアム

検索



かわさき産業ミュージアム講座記念論文集

平成23年3月

編集 企業市民交流事業推進委員会・インタラクティブかわさきネットワーク
川崎区産業ミュージアム専門委員会

発行 川崎市川崎区役所地域振興課 電話 044-201-3136
E-mail 61tisin@city.kawasaki.jp